

令和5年度第2回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事要旨

- 1 【日時】 令和6年3月13日（水）19時00分～20時35分
- 2 【場所】 高知市立総合あんしんセンター2階 高知県歯科医師会館会議室
- 3 【出席者】 協議会委員出席15名、欠席4名、事務局5名、
障害福祉課1名、在宅療養推進課2名、福祉保健所4名

4 協議事項

- (1) 令和5年度の実績及び課題について
- (2) 地域歯科保健連絡会における協議について
- (3) 令和6年度の実績について（日本一の健康長寿県構想関連事業）
- (4) 第5期高知県健康増進計画「よさこい健康プラン21」について
- (5) 災害歯科保健医療対策検討会設置要領の改定について
- (6) その他

5 議事の経過の概要

会長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、協議が行われた。

- (1) 令和5年度の実績及び課題について
(子どもの歯と口の発達)
 - ・委員から、フッ化物洗口について、説明会を実施した施設は全てフッ化物洗口の開始につながったのかとの質問があり、事務局から、説明会は園長会、校長会などで実施をした。その後、実施の意向があった施設へ個別に説明へ伺った。個別に説明をした施設では全施設フッ化物洗口を開始したと回答した。
 - ・委員から、フッ化物洗口について、市長も代わり公約の中にフッ化物洗口の増加を掲げている。市長にも直接会い、フッ化物洗口のこれまでの経過についてお伝えしている。体制も変わったことで今後も少しずつフッ化物洗口を実施する施設が増えていくと思うとの発言があった。
 - ・委員から、フッ化物洗口について、高知市は今年度5施設（保育所2施設、小学校3校）でフッ化物洗口が開始。来年度4月から2園が開始することになっており、開始に向けた支援にも入っている。また市歯科医師会の協力もいただき、3月の園長会でフッ化物洗口について説明いただいた。市長の公約ということもあり、年間5施設程度フッ化物洗口実施施設を増やしていくといった目標を掲げて働きかけを始めているところ。高知市は継続支援に力を入れている。実施している保育所、学校を全て回り、次年度も継続して実施できるよう年間、延べ200回以上支援を行っており、現在、休止している施設はないとの発言があった。

- ・委員から、今年度から園長になり、一番最初に始めた取り組みがフッ化物洗口だった。きっかけとしては、コロナ禍で園での歯みがきがなくなり、コロナが明けるタイミングでこれから口の衛生をどういうふうに保っていくのかというところで、フッ化物洗口を開始することになった。それまではフッ化物洗口について知識がなかったが、園長会等々での説明により知識を習得した。恐らく、園長先生方には周知をされていると思うが、園長以外の先生方はまだまだフッ化物洗口を知らない方もいると思う。園長以外にも声かけを行うのもフッ化物洗口を広めていく一つの手だと思ったとの発言があった。

(歯肉炎・歯周炎の予防)

- ・委員から、妊婦歯科健診について、受診者数は減少しているが、受診率はどのような状況かとの質問があり、事務局から、令和4年度妊婦歯科健診の受診率は39.9%であり、受診者数は減少しているが、受診率は増加傾向であると回答した。
- ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務について、歯科保健指導の対象者について質問があり、委員から、集団指導と健診機関が実施する事業所健診終了後に個別指導を行った。事業所健診を受診された方のうち、歯科保健指導を希望された方に指導を行ったとの発言があった。
- ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務について、協会けんぽの被保険者の方、加入者の従業員の健康づくりを担当している方などを対象に講義をしていただいた。協会けんぽでは健康づくりの講座をするときにアンケートをとっているが、「口の健康について聞きたい」との意見が一番多く、事業所従業員も口の健康に関心を持たれていると感じたとの発言があった。
- ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務について、協会けんぽ、福祉保健所の協力もあり、1000人以上の方に指導ができた。昨年度は個別指導のみであったが、今年度は5箇所まで集団指導が実施できた。個別指導に比べ集団指導は指導時間が確保でき、受講者の反応が良かった。今後も協会けんぽと連携し、集団指導を増やしていきたいとの発言があった。
- ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務について、受講者の年齢や、基礎疾患、生活習慣について把握されているのかとの質問があり、委員から、かかりつけ歯科の受診や、補助清掃用具の使用状況、歯周病と全身疾患等との関係について知っているか等についてアンケートを実施。現在アンケートの集計中であり、結果は次回の協議会で報告ができると思うとの発言があった

(生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上：障害者の歯科治療の推進)

- ・委員から、全身麻酔の歯科治療について、1日2ケースとなっているが、ニーズはどれくらいあるのかとの質問があり、委員から、令和4年7月7日が第1症例で、現在、41症例まできている。全身麻酔の歯科治療はハードであり、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士等のスキルアップが必要。2症例実施した日は2日あったが、人材が

育つまでは様子を見ながら1日1症例にしている。スキルアップができてきたら1日2症例治療を行っていきたいとの発言があった。

- ・委員から、重度心身障害児・者歯科診療事業の診療実績について、市町村別の受診者数について質問があり、事務局から、市町村別の受診状況までは把握していないと回答した。
- ・委員から、在宅歯科連携室は東部にサテライトがあるが、障害児・者歯科診療は東部に開設されていない。ニーズがあれば、安芸病院や総合庁舎等に診療できる場所が開設できればと思うとの発言があり、事務局から、東部での障害児・者歯科診療の提供に向けて、在宅療養推進課のハード整備事業と連動する形で、歯科診療に必要な機器、備品等の購入のため予算化に向けて動いていた。ただ、診療所が入る予定であった建物の改修スケジュールの状況等もあり、令和6年度の予算化は見送られた。ハード整備事業のスケジュールと合わせて、歯科医師会と連携し取り組みを考えていきたいと回答した。また、多機能支援施設には歯科医師会を始め、訪問看護、薬剤師会など多職種の団体に入っただく予定で進めていたが、事情があり、工事開始が遅れている。7年度開設を目指し進めていると回答した。

(在宅歯科医療の推進)

- ・委員から、摂食嚥下評価研修について、研修を受講してから実際に摂食嚥下に関わりだした先生はいるのかとの質問があり、委員から平成30年度から同行訪問歯科研修事業を開始し、その時は10名が研修を受講した。そこから数年が経ち、2次募集をしたところ4名の先生から申し込みがあり、摂食嚥下障害に対する食支援ができる歯科医師を合計14名養成した。コロナもあり、VEやVFの実習までは実施できなかったが、研修を受講した先生の中には、摂食嚥下の勉強に大阪大学へ通われた先生がいる。その先生を中心に、摂食嚥下について広めていきたいとの発言があった。
- ・委員から、在宅歯科医療従事者研修について、病院勤務の歯科衛生士の参加者数について質問があり、事務局から、参加者の所属までは把握できていないと回答した。
- ・委員から、退院されるときに病院から家族や本人に「歯科受診をしてください」と言われることがあるが、その情報がケアマネージャーまで届いていないことがある。家に帰ると生活に慣れることから始まり、口腔の問題が忘れ去られてしまうことがある。病院の退院時情報に口腔の情報が記載できるような書式になればいいとの発言があった。
- ・委員から、在宅歯科連携室について、高知連携室は対応エリアが広く、高知市、南国市、土佐市の大きな市とそれ以外の小さな市町村では問題が異なると思う。高知連携室は対応件数が少ないがその辺りはどのように分析をされているのかとの質問があり、委員から、高知連携室は2人体制で対応をしている。マンパワーも必要であるが、雇えば人件費も発生してくる。県とも相談し1人増員することも考えているとの発言があった。

(災害時歯科保健医療対策)

- ・委員から、災害時歯科保健医療対策について、能登半島地震では巡回診療車が活躍したとの話を聞いた。本県でも診療車は準備されているのかとの質問があり、事務局から、災害時歯科保健医療対策活動指針の中に歯科用医薬品と在宅歯科医療で使用している機器を災害時に活用することを記載している。能登半島地震では、日本歯科医師会の要請により県歯科医師会から JDAT が2チーム派遣された。被災地で活動された先生方の活動報告を受けて、今後の対策を検討していきたいと回答した。また、委員から、県歯科医師会も以前は巡回診療車を整備し、無歯科医地区を回り診療をしていたが、巡回診療車を運転できる方が高齢になり、現在は廃止になっている。能登半島地震では、福井県の巡回診療車を活用していたとの発言があった。
- ・委員から、災害時歯科保健医療対策について、災害時は歯科衛生士が活躍されると思う。被災地での活動をこれから地域で活かしていただきたいとの発言があった。

(2) 地域歯科保健連絡会における協議について

- ・意見なし。

(3) 令和6年度の取組について（日本一の健康長寿県構想関連事業）

- ・意見なし。

(4) 第5期高知県健康増進計画「よさこい健康プラン21」について

- ・意見なし。

(5) 災害歯科保健医療対策検討会設置要領の改定について

- ・異議なし。

(6) その他

- ・委員から、三原村には四万十市から歯科医師が来て歯科診療を行っていたが、一昨年、患者数が少なくなったこともあり撤退した。それに伴い、村民の歯科に対する意識が薄らえている。特定健診やがん検診に歯科講話もセットにして欲しいとの発言があり、委員から県に伝えるとの発言があった。

以上をもって、20時35分に閉会した。